

(公社) 熊本県建築士会 女性部会 ～かわら版～

第25号 令和4年4月発行

◆住まいづくりの無料相談会が

リニューアルします◆

令和4年4月より毎月第4土曜日の無料相談会は
建築士会館（県庁南側道向かい）7階に場所を移して
開催致します。お気軽にお越しください。

コロナ感染予防の観点から事前予約をお勧めいたします。

※連絡先 熊本県建築士会 TEL096-383-3200

✉leb03540@nifty.com

※開催場所： 熊本市東区神水1-3-7 7階



1999年の活動開始以来、鶴屋百貨店様にご提供頂き、また関係
各位のご厚情により続けてくることが出来ましたことを、一同深謝致します。
今後も女性建築士がご相談をお受けします。ぜひご利用ください。



※裏面には「熊本地震の記録」が掲載されています。前回に引き続き阿蘇支部の光原さんに
執筆頂いています。4月で発生から丸6年が経過しました。徐々に私たちの中で過去のことと
なりつつある日常の中で、もう一度あの時を思い起すきっかけにきっとなります。
是非目を通してみてください。

【告知】交流会開催のお知らせ

相談会のリニューアル第1回目は、相談会と交流会を併催します。

令和4年4月23日（土）建築士会館7階会議室にて

13時開始16時終了予定。※電話かメールで事前にお申し込みください。

お子さん連れOK！途中参加OK！途中退席OK！

今後、相談会を会員の交流を図る場としても活用できないかと模索しており試験的開催には
なりますが、仕事のこと、趣味のこと、子育てのこと、介護のことなど、建築に限らず
人生の先輩方、後輩達から話を聞けるチャンスです。

☎ 096-383-3200

飛び入り参加も大歓迎です(^-^)

☎ leb03540@nifty.com



わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに全員が参加できる部会活動を
目指しています。女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！

「熊本県建築士会女性部会」で検索 ♪ ♪ ♪



2016年4月の熊本地震、6月の豪雨災害。その時阿蘇では何が起きていたのか。
どのように感じ行動したのか。第3弾 建築士の仕事編です。



建阿蘇支部事務局
采建築設計室
代表 光原摂子

<建築士の仕事 編>

私は応急危険度判定士の講習を初回に受講したのだが、年に一度の電話による訓練に参加する程度で、現実には判定をする日が来るとは思っていなかった。旧阿蘇町地区で被害がひどかったのは「的石・狩尾地区」である。この地区は片側が山の斜面、反対側が水田という土地で、所謂レッドゾーン・イエローゾーンである。初期の段階で応急危険度判定が行われ、各家には緑・黄・赤の張り紙が貼ってあった。

4月末頃、友人とお客様からの連絡で私の建築士の仕事が始まる。

(それまでは、自営で私が自宅にいて、休校中の子供たちが学年に関係なくなるとなく集まってくるようになって、子供たちと遊んで暮らしていた。)

その友人は「的石・狩尾地区」に住んでいて、隣には判定の貼り紙があるのだが、友人宅にはなかった。地震直後には被害はなく、地震後の雨で、家の周囲のCB塀が建物の壁に倒れ掛かっているというのだ。見に行くと、CB塀の外側に小川があったのが、地震で形がなくなり、そこを雨が流れて塀の基礎を揺るがし倒れていた。更にその方角の建具開閉が固くなっていた。小川がそのままだと、基礎にまで影響が出そうなのでどうにかしたいが、市役所も被害無しで記録されているということだった。そこで、講習会でもらっていた判定用紙をコピーしてもらい、判定に向かった。

(阿蘇は全国から電源車が来て、ところどころの電柱に横付けし泊まり込みで電気を

送って下さった。1台当たり30~40戸の電力をまかなえるとか。我が家に電気が来たのは、4月30日ごろであった。)

お客様の依頼は地震保険のための判定であった。記録用紙は判定の用紙で良かった。家のことや子供のこともあり、1日3時間が家を開けるのが限界であった。判定業務は5月末まで行った。工事を頼まれることもあったが、三男が未入園であったため断った。

次の依頼は解体の立ち合いだった。その方は持病があり家族が熊本市内在住で、半壊の自宅は住めない状態なので、熊本市内でみなし仮設のアパートに避難されていた。家の状態は、平屋の住宅の1/3は1階がつぶれて屋根が地面に乗っている状態で、残りの部分はひび割れや傾きがあった。そのつぶれた部分に大切なものがあるので、解体の時に立ち会って、ものを探してほしいというものだった。まず、解体前に水道の元栓を閉めようと思ったがそれは大変だった。その地区は阿蘇市の水道でなく、地区の水源地からの水で配管の図面もなく、封書で届いた宝物探しのような、木・岩・木の真ん中に×印が書いた地図を頼りに子供たちにスコップを持たせ、3回目の捜索でやっと元栓が見つかった。解体が始まったのは8月中旬だった。そのころになると保育園が再開していたので、三男を一時保育で預かってもらうことができた。地震から4か月、放置されたままの現場は雨水で劣化が激しく、探し物の9割は見つかっても、取っておけるものはわずかであった。しかし、とても喜ばれたのは印象深い。

阿蘇は寒さが厳しいので、以前は白蟻による害は少なかったのだが、温暖化と高气密高断熱の家で越冬する白蟻がでてきている。地震で倒れた家屋の壊れた部分に白蟻の害が見られることもしばしばであった。

(つづく)